

## 令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年 月 日

協議会名: 白岡市地域公共交通確保維持改善協議会

評価対象事業名: 地域内ライダーシステム確保維持費用庫補助金

① 運行事業者	② 事業概要	③ 前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④ 事業実施の適切性	⑤ 目標・効果達成状況	⑥ 事業の今後の改善点(特記事項を含む)
昭和タクシー有限公司	<p>【デマンド交通】のりあい交通</p> <p>事業者名: 昭和タクシー            運行区域: 市内全域            運行日: 月曜～土曜(祝日、年末年始運休)            運行時間帯: 8時30分～17時30分            運行本数: 9便/日            運行車両: セダン型車両            運賃: 500円(障害者、小学生は300円、乗り合い利用の割引制度あり)</p>	<p>バンフレットの全戸配布を行い、のりあい交通の制度について周知を図った。            令和3年4月からは、利用者の多い午前中の1～4便について1台増車し、3台運行を行い輸送力の強化を図った。</p>	<p>計画に基づき、適切に実施した。</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できない点があった。  <b>【目標】</b>            ① 1日当たりの利用者数41人            ② 収支率18%以上            ③ 月曜日から金曜日までは、1日当たり2人以上利用者増。  <b>【実績】</b>            ① 1日当たりの利用者数42人            ② 収支率16, 7%            ③ 水曜日以外は前年と比較して2人以上増となった。  <b>【分析】</b>            午後の時間が進むにつれ利用者が減少している。病院や買い物での利用が多く午前中に外出する人が多くいまのと書えらる。</p>	<p>平前中は利用者が多く、予約不成立となることもあり、課題の一つになっている。            令和4年10月に実施したアンケート調査の結果を踏まえ、今後の運行のあり方を考えていく。            また、今後街頭啓発活動や地域に向いて出前講座を行うなど、潜在的利用者に対する制度のPRに努めていく。            引き続き、市民ニーズを的確に把握し、目的を追加するなど、利用者にとってより利便性の高いものにしていく。</p>

事業実施と地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

	協議会名： 白岡市地域公共交通確保維持改善協議会
評価対象事業名：	地域内ライダーシステム確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>白岡市は、面積24.92km<sup>2</sup>の地域の中央をJR宇都宮線の中央が縦断し、二つの鉄道駅(白岡駅、新白岡駅)を有している。本市の路線バスは、「JR白岡駅西口・菖蒲仲橋」「JR蓮田駅東口・菖蒲車庫」の3路線であったが、令和4年7月から新たに「JR蓮田駅西口・白岡中央総合病院」「東伸団地・白岡中央総合病院」の2路線が運行開始したことに伴い、合計5路線となった。しかし、JR宇都宮線の東側一部において公共交通空白地域が存在する状況となっている。</p> <p>JR宇都宮線の西側地域を運行する4路線のうち2路線は、JR蓮田駅を起点として市域の一部を経由し、久喜市へ運行するものであり、市民の利用者は一部に限定されている。</p> <p>65歳以上の高齢者の割合は、平成17年1月の15.5%から令和3年4月には27.8%となっており、高齢化が急速に進展している。</p> <p>また、本市では、平成11年に「町内循環バス」の運行を開始したが、利用状況や運行経費などを勘案し、平成19年3月に廃止した経緯がある。</p> <p>今後、高齢化が更に進展していく中で、本市では地域公共交通が果たすべき役割がますます大きくなっていくものと考えている。</p> <p>市民の通院・買物などの日常生活における移動手段を確保し、交通利便性の向上を図るため、費用対効果の高い地域公共交通サービス構築が必要である。</p> <p>本市では、協議会での検討の結果、高齢者や駅・バス停から離れた地域の居住者などを主な対象者として日常生活における移動手段を確保することを目的にデマンド交通の運行を行う。</p>

# 令和4年度 白岡市地域公共交通活性化協議会（埼玉県白岡市） （地域内ファイダー系統確保維持事業）

## 地域の公共交通等の現況・課題

白岡市は、面積24.92km<sup>2</sup>の市域の中央をJR宇都宮線が縦断し、二つの鉄道駅（白岡駅、新白岡駅）を有している。本市の路線バスは、「JR白岡駅西口・菖蒲仲橋」「JR蓮田駅東口・菖蒲車庫」の3路線であったが、令和4年7月から新たに「JR蓮田駅西口・白岡中央総合病院」「東団地・白岡中央総合病院」の2路線が運行開始したことに伴い、合計5路線となった。しかし、JR宇都宮線の東側一部において公共交通空白地域が存在する状況となっている。

JR宇都宮線の西側地域を運行する4路線のうち2路線は、JR蓮田駅を起点として市域の一部を經由し、久喜市へ運行するものであり、市民の利用者は一部に限定されている。

今後、高齢化が更に進展していく中で、本市では地域公共交通が果たすべき役割がますます大きくなっていくものと考えている。

市民の通院・買物などの日常生活における移動手段を確保し、交通利便性の向上を図るため、費用対効果の高い地域公共交通サービスの構築が必要である。

## 交通計画の基本的な方針／定性的な目標

JR宇都宮線東側の交通空白地における高齢者などの移動手段の確保は大きな課題となっている。市民の通院・買物などの日常生活における移動手段を確保し、交通利便性の向上を図るため、費用対効果の高い地域公共交通サービスを構築し、維持していくことが必要である。

### 【目標】

- ・1日当たりの利用者数41人とす。
- ・収支率を18%以上とする。
- ・利用が集中する午前中（1便から4便まで）の予約不成立の解消の観点から運行形態等の見直しを自実施し1台増車した。これにより月曜日から金曜日までは、1日あたり2人以上の利用者増とする。

## 目標を達成するために今年度実施状況

- ・デマンド型交通のパンフレットを作成し、全戸配布を実施した。
- ・広報ららおかや白岡市公式ホームページを活用して、デマンド型交通の周知を実施した。

## アピールポイント

地域からの意見・要望に耳を傾け、乗降場所を増やすなど、実現可能な事項は対応している。また、同時に2人以上で利用する際に、運賃を割り引く「乗り合い割引制度」を設け、効率的・効果的に事業運営ができるよう工夫している。



面積	24.92km <sup>2</sup>
人口（R4.4.1時点）	52,669人
15歳未満	6,457人
65歳以上	14,795人
高齢化率	28.1%

## 交通計画の計画期間

計画作成なし

## 協議会開催状況

- （令和4事業年度に係るもの）
- ・第37回（3年5月27日）（書面開催）  
地域内ファイダー系統確保維持計画について、交通不便地域について
  - ・第38回（3年12月24日）  
目的地（主要施設）について
  - ・第39回（4年5月27日）  
目的地（主要施設）について
  - ・第40回（4年9月22日）（書面開催）  
交通不便地域について、地域内ファイダー系統確保維持計画変更について
  - ・第41回（5年1月30日）  
事業評価について